

2020年6月11日
会社名 Kudan 株式会社
(コード 4425 : 東証マザーズ)
住所 : 東京都渋谷区渋谷二丁目 10 番 15 号
代表者 : 代表取締役 大野智弘
問合せ先 : 取締役 CFO 飯塚 健
電話番号 03-4405-1325

<マザーズ>投資に関する説明会開催状況について

以下のとおり、投資に関する説明会を開催いたしましたので、お知らせいたします。

○開催状況

開催日時 2020年5月11日 12:30

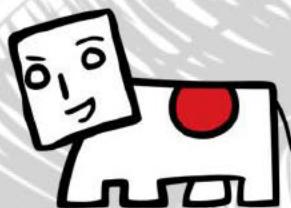
開催方法 決算説明動画の配信

動画掲載場所 自社ホームページ
https://www.cmstream.com/pir/?conts=kudan_202005_rDap

説明会資料名 2020年3月期 決算説明会

【添付資料】

投資説明会において使用した資料



kudan

Kudan株式会社 (4425)

2020年3月期 通期決算説明資料
2020年5月11日

- **M&Aを通じた事業拡大に着手し、Artisense社への出資を締結**
 - 世界最高水準の人材・技術を獲得し、同分野の独立・専業企業として大きく先行
 - 両社の事業拠点を相互活用し、日中欧米にて共同事業開発を開始
 - 次世代技術（GrandSLAM）に向けて、共同技術開発を開始
- **研究開発の進捗と、技術ラインナップの拡張**
 - 次世代センサ向け技術（LiDAR SLAM）を開発、新規売上の柱として立ち上がり
- **本格的な技術普及に向けたバリューチェン構築を加速、各領域でパートナーシップを締結**
 - プロセッサ企業：Synopsys、Qualcomm
 - センサ・LiDAR企業：Sony、Thales、Ouster、Cepton
 - 技術商社・ソリューション企業：Unisys、Macnica、Elematec、Fixstars、SEAOS
- **事業開発組織を強化し、グローバル体制を確立**
 - 日本：人員を強化し、安定売上の切り取りへ
 - 米国：現地法人の設立、北米事業の立ち上げを推進
 - 欧州：Artisense社ドイツ法人と共同事業開発体制を構築

2020年3月期 業績概要



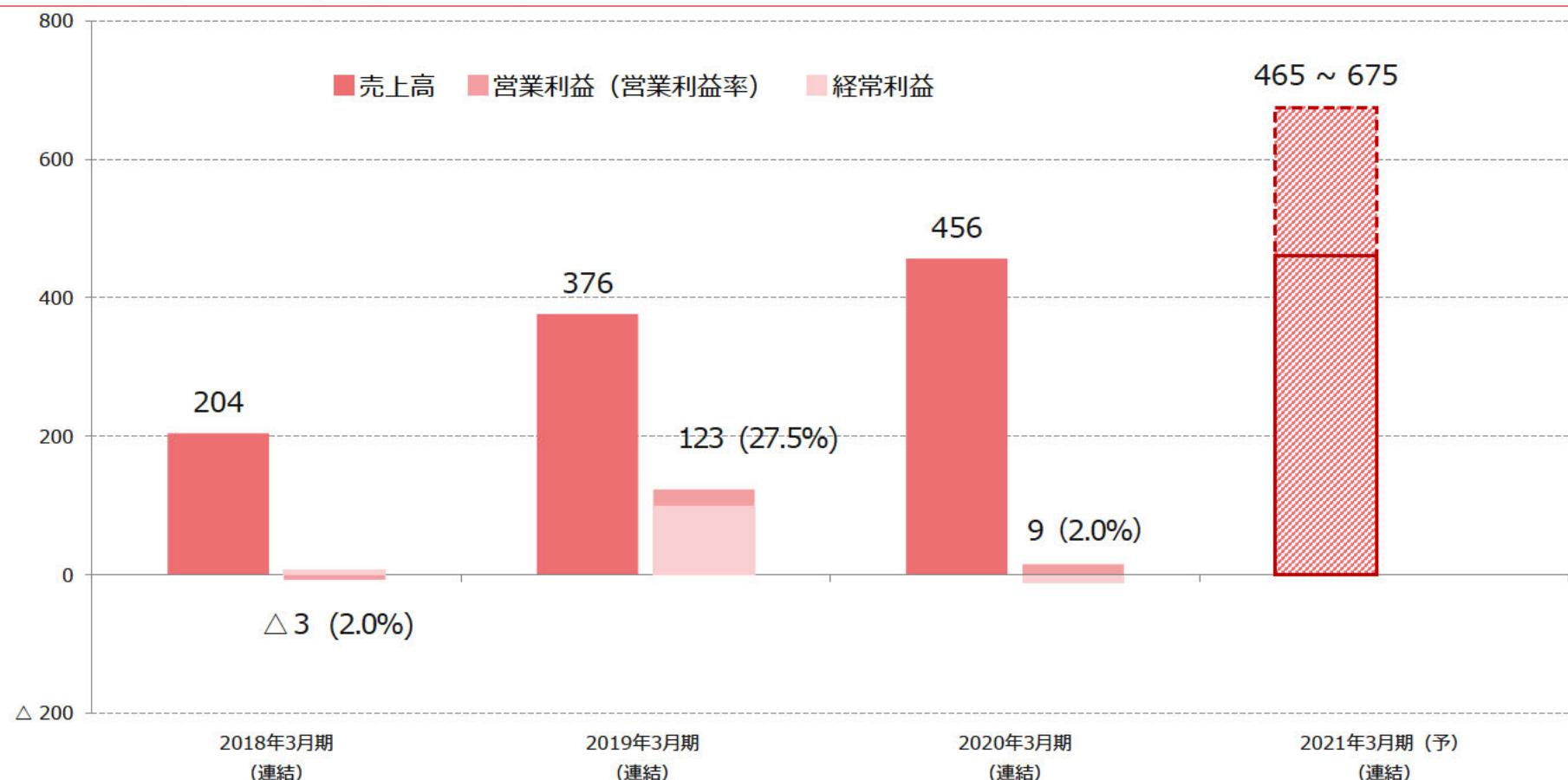
欧米の事業開発立ち上がり遅延、新型コロナウイルス感染拡大の影響により欧米含む特に日中案件の遅延・縮小により、売上未達。一方、事業開発体制構築、コスト実績等計画通り着地。

(単位：百万円)

	2019年3月期 実績	2020年3月期 実績	2020年3月期 業績予想	達成率 (対業績予想)	2021年3月期 業績予想
売上高	376	456	650	70.2%	465 ～675
営業利益	123	9	213	4.4%	—
経常利益	103	△12	213	—	—
親会社株主に 帰属する 当期純利益	103	△29	213	—	—

2021年3月期業績予想は、2020年3月期からの売上高計上の期ズレと各主要エリアにおける新型コロナウイルス感染拡大の有無・影響が不透明のため、売上高のみのレンジ開示。

売上高・営業利益の推移 (単位:百万円)



Kudanは、人工知覚技術における非競合・独占の戦略を推し進め、withコロナの社会課題を解決し、それにともなって急拡大する成長機会を捉える

外部環境の急転換

- 人と人の接触を回避するために、オペレーション省人化／無人化／リモート化が全産業で取り組むべき課題として露呈
- ロボティクス技術などの社会実装に対する強制圧力と、それでもたらされる技術需要の急拡大が確実



経営戦略の先鋭化

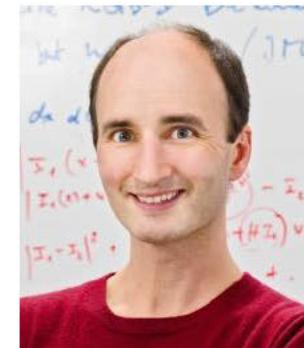
- 「機械の眼」として、ロボティクスの社会実装にとって将来避けて通れない深層技術（人工知覚）に継続して注力
- 非競争・独占の戦略を進めるべく、最大の直接競合となるArtisense社を買収

第一人者クレーマーズ教授をはじめ、世界トップレベルの技術チームを確保し、Kudanは同分野における世界最大の独立・専業の技術集団へ



- **人工知能・自動運転研究の第一人者であるクレーマーズ教授の参画**
 - Artisense社 創業者 最高研究責任者
 - Spatial AI・SLAM分野で世界第一位の実績（論文引用数は3.6万、学術分野への貢献度を示すGoogle h指数は89）
 - ミュンヘン工科大学 人工知能・コンピュータビジョン分野の首席教授

- **Kudanと合わせて30名のトップ技術者チームを確保**
 - クレーマーズ教授が率いる20名強の技術者チームが参画
 - 世界的に同分野のトップ技術者は不足し、GAFAを含めた争奪戦となっているなか、Kudanは独立・専業の企業として他社を大きくリード



両社の技術統合によって、業界に先駆けたブレークスルーが可能に

- ① 機械の「眼」が、より人間の「眼」に近づく： 直接法と間接法の統合
- ② 機械の「眼」が、人間の「眼」を超える： VisionとLiDARの統合
- ③ 機械の「眼」と、機械の「脳」が融合する： 人工知覚と人工知能の統合



独自の技術実装、事業展開による商用化実績に強み



世界トップの研究力に裏づけされた先進的な次世代技術に強み

人工知覚技術	Vision	・間接法SLAM：処理が高速、実用化で先行	・直接法SLAM：高度で高性能。人間の認識により近い「直感的な」手法 ①
	LiDAR	・LiDAR SLAM：Vision技術より高性能、LiDAR普及に伴って主流技術へ	②
	人工知能統合	・GN-net：Deep Featureによる深層学習との統合。実用環境では必須	③

- 本資料は、当社の事業および業界動向に加えて、
当社による現在の予定、推定、見込みまたは予想に基づいた将来の展望についても言及しています。
- これらの将来の展望に関する表明は、様々なリスクや不確実性がつきまとっています。
- すでに知られたもしくは知られていないリスク、不確実性、その他の要因が、
将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。
- 当社は、将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、
結果は将来の展望と著しく異なることもあります。
- 本資料における将来の展望に関する表明は、2020年5月8日現在において、
利用可能な情報に基づいて、当社によりなされたものであり、
将来の出来事や状況を反映して、将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではございません。